

佐世保近郊

県北 対馬 壱岐 五島

地域に必要な人材育てる

自信を持っている。

—50年前から変わらず続けていることは何か。

創立当時から、旧平戸藩松浦家に伝わる茶道「鎮信流」

浦家に伝わる茶道「鎮信流」を教育に取り入れている。お茶のたて方だけでなく、日本文化も併せて教えている。茶道文化は日常生活での立ち居振る舞い、マナーにも影響する。学生からは「就職してから役に立った」との声もよく聞く。

—改めて今後の抱負を。

地域に必要とされ、信頼される人材を育成することが求められているものの、短大での教育の意義がまだ十分に伝わっていないと感じる。いつも学生のために取り組み、地域との絆を強くしながら、大学とは違った短大ならではの地域創生に取り組みでいきたい。(聞き手は佐世保支社・後藤洋平)

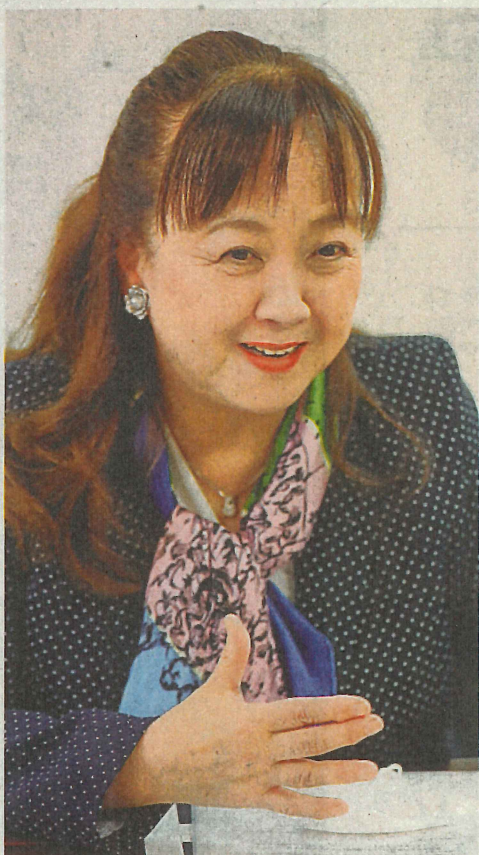
〈本年度、創立50周年を迎えた佐世保市の長崎短大。少子化や四年制大学への進学が増えたことなどを背景に、短大の学生数は全国的に減少傾向にある。短大の存在意義が問われる中、どのような教育に取り組んでいくのか。半世紀の歩みや今後の抱負などを聞いた〉

インタビュー

—短大を取り巻く現状は。その中で、長崎短大が果たす役割とは何か。

ピーク時の1993年に全国に53万人いた短大生は現在、3分の1以下にまで減少。四年制大学への改組などで学校数も減り、県内ではかつて最大10校あったが、今は2校だけとなった。一方、学生の7割程度は県内から入学。卒

長崎短大 創立50周年 安部恵美子学長



今後の抱負や短大教育の意義について語る安部学長。佐世保市椎木町、長崎短大(山口隆行撮影)

業後も7割ほどが県内に就職し、地元根ざした教育機関と言える。今後も地域の中堅、中核を担う人材を輩出していくことが求められる。

—長崎短大の特色は。

2015年度に文部科学省から選定された大学教育再生加速プログラムの一環で、2年を八つのチーム(学期)に分けた。1年次には海外留学や国内外でのインターンシップ(就業体験)などに取り組む。地域との結び付きをさらに強める。教員の教育力にも

あべ・えみこ 島原市出身、奈良女子大学文部科学省中央教育審議会臨時委員など務める。